

日刊紙 エル=パイス より

モロッコ軍隊の銃撃によりサハラウィの少年一人が死亡、二人が重傷。

被害者が乗っていた車は、エル=アイウン郊外の抗議テント村近くのコントロールを突破、発砲を受けた。

イグナシオ・セムブレロ 10月25日マドリッド

西サハラの首都エル=アイウンから15キロ離れたところに、二週間前から大勢のサハラウィが参加する抗議テント村がある。しかしここで昨日、最初の犠牲者が出た。ナジェム・ガレフは14歳の少年。兄弟仲間と共に四輪駆動でテント村へ向かう途、コントロールを突破しモロッコ兵により撃ち殺された。

車には4人のサハラウィが乗っていたが、この少年の兄ズバイル・ガレフとダウディ・アフメドの二人は重傷を負い近くの病院へ運ばれた。車は第一番目のコントロールでは停まったが、二番目のコントロールには兵隊が配置されており突破と同時に発砲を受けた。

西サハラでは35年前にスペインが引き上げて以来このような大規模な抗議行為は一度も見られたことがなく、今までのところモロッコは抗議テント村に対し飴とムチで応じていた。しかし時の経過とともに村の規模はますます拡大、モロッコ当局は苛立ちを隠せなくなってきている。

当初は一握りの若者たちがテントを張ったことに始まったが、今では大勢の老若男女が集まる村となっている。これらの人々は仕事や住居を要求している他、西サハラ海の天然資源が自分たちのものであることを主張しており、この行動はYoutubeに載せられるまでになった（訳注）。

参加者の数は一万人以上とみられるが、日に日に増大している。モロッコの独立系新聞はおよそ8千人と発表し、一方西サハラ独立のために闘うポリサリオ戦線は1万5千から2万人と見積もっている。この膨大な人々の移動はエル=アイウンの日常社会にも影響を及ぼし、学校によっては出席生徒不足で休校するところも出ている。

このテント村ではポリサリオ戦線の旗や標語は見受けられず、ここにいる親独立派の者たちはできるだけ目立たないようにしている。テント村は若者たちが構成する調整委員会で運営されており、そこには活動歴のある者は一人もいない。

「ここで独立要求の兆しを見せるなんて、それはもう自殺行為ですよ。」と電話に応じてくれた委員会メンバーのオマルは言い「そんなことをしようものなら、モロッコ治安部隊に介入の口実を与えるだけですか

らね。ここではとにかく我慢に我慢を重ねて行きますよ。」と語った。

威嚇されるテント村

テント村を取り囲んでいるのは、治安部隊や内務省管轄の軍補佐部隊、そして軍隊だ。ここに参加しようとやってくる人々に時折立ち入りを禁止したり、水や食糧の供給を阻止したりしている。「食糧のために出入りする車に石を投げたりもします。」ともう一人の委員会メンバーは言ったが、彼は「報復が怖いから」自分の名を公表しないようにと本紙に頼みモハメドと名乗る。

一方モロッコ内務省はエル=アイウンに三名の高官を送って同委員会と話し合いを持ち、抗議行動の停止を条件にいくつかの提案を出しているもようだ。政府の 2011 年度予算が非常に削減されていることを考慮すると、このように多くのサハラウィたちの要求を呑むのは困難だろう。

テント村についてモロッコ政府のハリド・ナシリ報道官とタイエブ・ファシリ外相は記者会見で、「社会問題に対する要求を表現できるというのも、モロッコが民主主義と自由を備えているからこそです。」と説明した。

ファシリ外相はさらに「この社会的要望を利用しようとする企み」がポリサリオ戦線側にあるとし、そのリーダー モハメド・アブデラジズが国連にテント村のサハラウィたちを保護するよう要請したことを攻撃した。

来月初旬には国連事務総長私使クリストファー・ロス氏により、モロッコとポリサリオ戦線はニューヨークで直接協議を行うことになっており、同氏はちょうど現在、これに向けた関係諸国歴訪を終えるところだ。

訳注：Youtube ビデオは<http://www.youtube.com/watch?v=YSHnMXgSHuM>